



西武ライオンズ、サッポロホールディングスとの連携事業「みんなの輝く☆を見つけよう!プロジェクト」子どもたちや家族を招待し、メッセージボードの前で記念撮影。平成28年度から毎年実施しています。

本市では、包括協定やネーミングライツ、民間と協働したシテイプロモーション事業などの官民連携の取り組みをまとめて、「民間共創事業」と位置付け。さまざまな企業や団体と連携し、課題解決や本市PRに取り組んでいます。例えば、西武ライオンズ、サッポロホールディングスとは、多様性を認め合える社会の実現に向けた連携事業を実施。前橋特別支援学校の子どもの絵画作品を基に作成したメッセージボードを球場内の広告スペースに掲出し、自己表現の場を提供しました。その他にも、市内のコンビニ約150店舗でのAED設置や、郵便局でのマイナンバーカード交付申請への支援など、連携は多岐にわたります。

官民連携 手を取り合って前橋の未来へ

☎ 未来の芽創造課 ☎027-898-6427



群馬セキスイハイム代表取締役社長・山下 昌宏さん

「セキスイハイム太陽光発電kidsニコニコプロジェクト」第三保育所の屋上に太陽光発電設備を設置し、売電収益を本市に毎年寄付

地域に根差した企業になりたいと考えていたことが連携事業のきっかけです。私たちが協力できるのは太陽光発電だと思い、本社近くの第三保育所にパネルを設置したいと提案しました。毎年寄付を楽しみにしてくれてうれしいですね。子どもたちに環境や自然への意識が芽生えてくれればと思います。官民連携事業に取り組むことで、社員の社会貢献への意識が向上していると感じます。社会貢献は企業にとって大きな任務の一つ。さまざまな企業や団体が特性を生かし行政と力を合わせれば、可能性が広がっていくと思います。



前橋自動車教習所取締役所長・新谷 正樹さん

「自動車運転免許取得支援プロジェクト(タイガーマスク運動支援事業)」児童養護施設などから巣立つ子どもたちの、自動車運転免許の取得費用をこのプロジェクトで全額負担

群馬で就職するには運転免許が必須です。施設の子どもたちは、高校在学中にアルバイトなどで自ら免許の取得費用を準備しなければならず、大きなハードルであると感じていました。この課題解決に向けて市内4つの教習所で何かできないかと考え、このプロジェクトを市に提案し実施することになりました。会社としても社会貢献ができていますと実感しています。この取り組みを、市外にも広めていきたいです。業種によってできることは違うと思いますが、多くの官民連携事業が前橋に生まれたいなと願っています。

官民連携と聞くとあまり身近ではない難しいことだと感じてしまいかもしれませんが、私たちの身の回りでは、ここでは紹介しきれないほどのさまざまな連携による取り組みが行われています。どれも民間と力を合わせて取り組むことで、より効果的に、質の高い事業を実施することができています。今後もこの官民連携事業を継続、強化。力を合わせて課題解決や新たな価値の創造に取り組み、前橋の未来につないでいきます。



本紙で何度か登場している自動運転バス実証実験も官民連携事業の一つ。行政だけでは実施困難な公共交通の課題解決方法の検討を、民間と協力して実施しています。

なぜ官民連携が必要？

これまで、まちづくりや地域の課題解決は行政主体で行ってきました。しかし、人口減少や社会情勢の変化などで、行政だけでは解決しきれないことや、さらに質の高い行政サービスを提供しなければならぬことが増えています。そのため、行政運営に民間活力が必要になっていきます。

おままごとで楽しく遊ぶ、第三保育所の子どもたち。実はこのおままご、企業が太陽光発電で得た売電収益で購入したものです。最近、官民連携という言葉をよく耳にしませんか。民間の知識や技術を活用し、「官II行政」と「民間II民間」で協力してまちの課題解決、魅力向上に取り組むものです。第三保育所には企業の協力で太陽光発電設備を設置。これも官民連携事業の一つで、売電収益を市に寄付するというものです。本年度は、公立保育所16カ所におままごとセットが届けられました。今回は、このような本市が取り組む官民連携を紹介します。